

目指す生徒像 自 律 礼 節 を 重 ん じ、 不 満 屈 の 気 概 を 持 っ た 生 徒 敬 愛 豊 富 な 人 間 性 を 持 ち、 自 他 を 敬 愛 す る 生 徒 進 取 勤 労 を 重 ん じ、 時 代 に 対 応 す る 実 践 力 を 身 に つ け た 生 徒	教育目標 (1) 正義と礼節を重んじ、心身ともにたくましい人間を育成する。 (2) 豊かな人間性を培い、自他を敬愛し、自主的に行動できる人間を育成する。 (3) 水産・海洋の専門的知識・技術を身につけ、社会に貢献できる人間を育成する。	【めざす学校像】 地域と共に・地域に生きる・魅力と活力ある浜田水産高校 ～合い言葉：未来力を高めよう～
--	--	---

重点目標	評価計画			自己評価				外部評価				
	短期(本年度)努力目標	目標達成のための方策	担当 及び 主管	取組と達成状況	評価 達成度	改善策	学校関係者評価4名					提言・コメント
							A	B	C	D	不明	
1. 生徒一人ひとりを大切に育む学校生活の展開	① わかりやすく、きめ細やかな授業を実践し、基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や定期考査を通して、生徒の基礎学力の伸長を図り、生徒に自己有用感を持たせる。 研究授業、公開授業などを通じ、教員全体の授業力の向上を図る。 生徒の実態にあわせ、すべての生徒に向けた指導方法を工夫し、学習意欲が向上する授業を行う。 目的を明確にし、主体的な授業を行う。 学習方法や見通しを具体的に示し、課題提出など学習に関する約束を守る態度を育成し、学習効果の向上を目指す。 	教務 各科	<ul style="list-style-type: none"> 「授業を受けるための5カ条」の提示や振り返り、キャリアパスポートでの定期試験の学習計画などを実施し、全体の成績向上に繋がった。 公開授業により、新しい観点別評価へのスタートを切ることが出来た。 休校期間中もオンライン授業を行うなど、コロナ禍に対応した学習支援ができた。 	B+	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学習指導要領に対応し、新たな学力観、観点別評価など、校内の意識や体制を変えていく必要がある。 生徒一人一台端末時代を迎え、また、コロナ禍も続きそうな中で、PC等を利用した新たな授業方法への取り組みが必要である。 		3			1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒さんの評判が良い。特に校外活動は大変良く、校外販売など(テレビのニュースで流れた)町の方々も評価している。 部活動は良い成績で頑張っている。 就職は市内・県内定着率も大事だが、外に打って出るという精神も尊重したい。 外へ出たいという気持ちはどうしてもある。将来的に帰ってきて浜田の水産に貢献するというのがいいのではないかと。
	② 基礎・基本を重視した授業・実習に努め、専門教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての必要な資質の育成と基本的人権を確立する。(服装・頭髪について規則を守らせる) 携帯電話使用場所のルール遵守 校外でのマナーアップを目指し、校外巡視や下校指導を行う。 生徒会活動や部活動の活性化を図る。 地域活動や清掃活動などをとおして、自尊心、自己肯定感、規範意識を養う。 生涯にわたり、主体的に健康管理できる生徒を育成する。 実習をとおして生徒を育てる。(挨拶、返事、時間厳守、他者に対する思いやり、正しい言葉づかい) 妥協のない態度で授業を行い、授業を大切にし、ルールを守る態度を育成する。 教師と生徒、生徒相互の意思疎通や対話を大切に授業を行う。 心身の健康問題について、支援体制を構築し、校内外の連携支援を強化する。 	生指 各科 保健	<ul style="list-style-type: none"> ノーチャイム期間の設定など生徒の自己管理の意識向上への取り組みは、効果があった。 携帯電話使用場所のルール徹底は不十分だった。 「健康状態記録表」「すいすい健康ファイル」「心の健康アンケート個人対談」の活用により、健康に対する自己理解、解決への意識変容に繋がることができた。 実習をとおしての指導において、挨拶、時間厳守など概ねできてはいるが、言葉づかいについては目標達成には不十分であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習など個別の学習支援を粘り強く行い、成果をあげることができた。 教科間や教科と担任との間で情報共有、連携を行い、生徒自身の意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習による個々の生徒への支援を粘り強く継続していく。 教科と担任との連携「報・連・相」を継続していく。 		3		1	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様子は配布いただいた便りや課題研究発表会の資料、学校評議員会の時の説明などを通じ伝わってくるものも多々あった。 「船上の風が気持ちよかった」とのオープンスクールでの感想からも、体験をもって感じることや伝えることの重要性を思った。
2. 社会人としての必要な資質の確立	① 生徒一人ひとりの自己理解と自己管理能力を育成し、遅刻・欠席の減少を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての必要な資質の育成と基本的人権を確立する。(服装・頭髪について規則を守らせる) 携帯電話使用場所のルール遵守 校外でのマナーアップを目指し、校外巡視や下校指導を行う。 生徒会活動や部活動の活性化を図る。 地域活動や清掃活動などをとおして、自尊心、自己肯定感、規範意識を養う。 生涯にわたり、主体的に健康管理できる生徒を育成する。 実習をとおして生徒を育てる。(挨拶、返事、時間厳守、他者に対する思いやり、正しい言葉づかい) 妥協のない態度で授業を行い、授業を大切にし、ルールを守る態度を育成する。 教師と生徒、生徒相互の意思疎通や対話を大切に授業を行う。 心身の健康問題について、支援体制を構築し、校内外の連携支援を強化する。 	生指 各科 保健	<ul style="list-style-type: none"> ノーチャイム期間の設定など生徒の自己管理の意識向上への取り組みは、効果があった。 携帯電話使用場所のルール徹底は不十分だった。 「健康状態記録表」「すいすい健康ファイル」「心の健康アンケート個人対談」の活用により、健康に対する自己理解、解決への意識変容に繋がることができた。 実習をとおしての指導において、挨拶、時間厳守など概ねできてはいるが、言葉づかいについては目標達成には不十分であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ノーチャイム等、行動・時間を自ら意識する取り組みを継続する。 携帯電話使用可能場所・時間のルールをわかりやすく示す。 健康に対する教育を個別指導に加え、全体指導についても生徒の実態に沿って改善していく。 科内で学期ごとの振り返りを持ち、目標達成に向けていく。 		4			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会は生徒のユニークな発想が多く、取り組みに試行錯誤が感じられ、課題解決に向けての良い学習機会になったと思う。 コロナ感染症の状況を見ながらも、今後、学校行事や発表会、学習などを参観させていってほしいと思う。 ノーチャイムの取り組みについては、まずは良かったと思う。今後は、期間だからということではなく、本当のねらいを理解させての指導が必要。 	
	② 生徒個々の自己有用感を育成し、基本的な生活習慣の定着を図る。(相応しい行動、挨拶、頭髪・服装、態度)	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての必要な資質の育成と基本的人権を確立する。(服装・頭髪について規則を守らせる) 携帯電話使用場所のルール遵守 校外でのマナーアップを目指し、校外巡視や下校指導を行う。 生徒会活動や部活動の活性化を図る。 地域活動や清掃活動などをとおして、自尊心、自己肯定感、規範意識を養う。 生涯にわたり、主体的に健康管理できる生徒を育成する。 実習をとおして生徒を育てる。(挨拶、返事、時間厳守、他者に対する思いやり、正しい言葉づかい) 妥協のない態度で授業を行い、授業を大切にし、ルールを守る態度を育成する。 教師と生徒、生徒相互の意思疎通や対話を大切に授業を行う。 心身の健康問題について、支援体制を構築し、校内外の連携支援を強化する。 	生指 各科 保健	<ul style="list-style-type: none"> 服装については概ね良好だが、細やかな指導ができていなかった。 下校指導が十分ではなかった。 コロナ禍により活動への制約が多い中、生徒会、部活動等概ねよく活動をした。部活動については部員不足などの課題も残った。 寮での清掃活動、地域活動をおして規範意識、自尊心、自己肯定感を養うという取り組みが、コロナ禍の影響もあり、不十分であった。 「授業を受けるための5カ条」に基づき共通理解の元での指導ができた。 心の健康教育全体・年間計画の策定、危機対応チーム等の組織の確立等、体制作りができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個々に対する細やかな指導を行う。 校外巡視の継続と、マナーアップに繋がる交通指導を、計画的に実施する。 各委員会活動の発表の場を設ける。 部活動紹介、部活動体験など新入生に対する効果的な働きかけを行う。 寮における清掃活動の頻度をあげ、掲示物などにより規範意識の向上を図る。 感染対策をとり、地域での活動を行う。 引き続き「授業における約束」を守るよう指導をする。また、対話を大切に授業を展開する。 体制のもと、よりよい運営を行う。 		1	3		<ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会は生徒のユニークな発想が多く、取り組みに試行錯誤が感じられ、課題解決に向けての良い学習機会になったと思う。 コロナ感染症の状況を見ながらも、今後、学校行事や発表会、学習などを参観させていってほしいと思う。 ノーチャイムの取り組みについては、まずは良かったと思う。今後は、期間だからということではなく、本当のねらいを理解させての指導が必要。 	
3. まししい勤労観の育成と進路指導の充実	① 生徒一人ひとりの個性に合わせた進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の立場に立った進路相談を早期に開始する。 生徒に目的意識を持たせ、資格試験の受験者及び、合格者数の向上を目指す。 進路指導部、各科との連携を図り、補習、添削などの対応を行う。 保護者・担任及び関係機関との連携を密にし、進路や資格試験情報を保護者及び担任へ適切に提供する。 進路だよりを月1回発行し、HPの更新を行う。 水産海洋関連地場産業の新規開拓と地元への就職を推進する。 会社訪問を計画的に行い、情報収集と企業との関係強化に努める。 加-ワ-リ、人材育成コーディネーター、定任財団等との連携を深める。 	進路 各科	<ul style="list-style-type: none"> 早期の進路相談等、計画的な指導を実施することができた。 受験者数の増加や合格者数の増加については概ね良い結果を残すことができた。 予定どおり、就職、進学へ向けての補習を行うことが出来た。 	B+	<ul style="list-style-type: none"> 今後も早期の進路相談を実施する。 生徒の目的意識向上への啓蒙を行い、資格試験での成果の向上を目指す。 進路に向けての補習を継続する。特に大学進学、公務員志望者には長期計画に基づいた指導、各種模擬試験の受験等の対策を講じる。 		2	2		<ul style="list-style-type: none"> 成年年齢引き下げへの対応が大切になってくる。 進路指導は、出口についての夢や可能性を大切にされた全体の雰囲気も大事。 5ヶ条など工夫ある学習指導によって成績の向上に繋がったことは良いと思う。 	
	② 生徒・保護者へ時宜を得た進路情報を提供し、早期の進路目標実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の立場に立った進路相談を早期に開始する。 生徒に目的意識を持たせ、資格試験の受験者及び、合格者数の向上を目指す。 進路指導部、各科との連携を図り、補習、添削などの対応を行う。 保護者・担任及び関係機関との連携を密にし、進路や資格試験情報を保護者及び担任へ適切に提供する。 進路だよりを月1回発行し、HPの更新を行う。 水産海洋関連地場産業の新規開拓と地元への就職を推進する。 会社訪問を計画的に行い、情報収集と企業との関係強化に努める。 加-ワ-リ、人材育成コーディネーター、定任財団等との連携を深める。 	進路 各科	<ul style="list-style-type: none"> 業務アシスタントの配置もあり、適切な情報提供ができたが、進路だよりの発行回数およびHPの更新が目標には届かなかった。 会社訪問等が、コロナ禍により、あまりできなかった。 校外の事業への参加、校外組織との連携は計画どおり行うことが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外組織との連携が不可欠となっている。今後は推進をしていく必要がある。 オンライン面接に対応できるよう、対策を講じていく必要がある。 		1	3		<ul style="list-style-type: none"> ネット環境の整備は必要だと思う。まだまだ続きそうなコロナ禍の中、オンライン授業や就職面接に対応できるようにしていただきたい。ただし、偽情報の見極めなど、ネットの正しい使い方を教えることも大切。 	
4. 人権教育、道徳教育、特別支援教育の推進	① 校内組織及び支援体制を充実し、研修や啓蒙など計画的な取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的、定期的に人権・同和教育LHRの実施や人権・同和教育だよりを発行する。 教職員や保護者を対象にして、人権・同和教育の研修会を実施する。 関係機関と連携し、生徒の進路保障に努め、自己実現を支援する。 互いを尊重し他人を思いやる心を培い、差別を許さない態度と実践力を育てる。 	人権同 和教	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生の出校停止があった3学期以外は計画通り人権・同和教育LHRができた。 人権・同和教育だよりは計画どおり発行できた。 PTA 対象講演会、教員研修はコロナを考慮し行わなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> LHRは、引き続き計画的に行う。 講演会は来年度もコロナの影響が見込まれるため行わず、代替の研修を計画する。 		3		1	<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナーについては気になる生徒もいる。小学生の下校時など気をつけなくてはいけない。 	
	② あらゆる教育活動をとし、人権意識・共生意識を育み、社会性を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的、定期的に人権・同和教育LHRの実施や人権・同和教育だよりを発行する。 教職員や保護者を対象にして、人権・同和教育の研修会を実施する。 関係機関と連携し、生徒の進路保障に努め、自己実現を支援する。 互いを尊重し他人を思いやる心を培い、差別を許さない態度と実践力を育てる。 	人権同 和教	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターや浜田市の研修での内容を含めて情報提供をし、生徒の人権意識の育成を図った。 採用試験や受験の面接の終了ごとに質問事項のチェックを行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き情報提供を含め、生徒の人権意識の向上に繋がる活動を行う。 進路指導部、学年部との連携のうえ、採用試験のチェックを綿密に行う。 		3		1	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用で、様々な取り組みができる。コロナ禍で他者との関わりが少なくなり、社会性を身につける機会が減っている中で、授業(学習)だけでなく、生徒との面談や、外部講師や他校との交流、グループワークなど多くの人と関わるチャンスができる。 	
5. 水産・海洋教育を担う学校域として、地域と連携した学校づくりの推進	① 地域と学校の連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・小中学校・特別支援学校と体験乗船や合同実習等の交流を行う。 課題研究において、地域との連携を図り、商品開発や後継者の育成をはかる。 市、県、県立大学と連携する。 未来をつくる力を育む教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集を行う。 体験入学やホームページ等を充実させ、生徒募集を活性化させる。 	総務 各科	<ul style="list-style-type: none"> 外部との交流・連携は、コロナ禍により、一部を除き計画どおりにはいかなかった。 ノドグロ給食事業を展開し、良い反響を得た。 体験入学は、県内、県外に分け、2回の実施となったが、概ね好評であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍からできないではなく、コロナ禍の中でどう行っていくかを考えるフェーズに入っている。具体策を考え、計画を作る。 		2	2		<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信で、YouTube (URL付きの非公開) を利用する。授業や部活動、生徒会活動の様子がわかれば、色々安心できる。(セキュリティ管理が大変ではあるが) 	
	② 魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・小中学校・特別支援学校と体験乗船や合同実習等の交流を行う。 課題研究において、地域との連携を図り、商品開発や後継者の育成をはかる。 市、県、県立大学と連携する。 未来をつくる力を育む教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集を行う。 体験入学やホームページ等を充実させ、生徒募集を活性化させる。 	総務 各科	<ul style="list-style-type: none"> ホームページについて多くの意見があった。 本校の教育活動を理解してもらうための情報発信(新聞・テレビ)が少なかった。 	B-	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ更新について、体制作りの点検、見直しを行う。 外部への情報発信を意識的に行う。 		1	2	1	<ul style="list-style-type: none"> メディア(TV・CATVなど)を利用。あらゆる年代の人に情報が伝わる。生徒の「見られている・注目されている」という意識がマナーアップにつながる。 	
6. 2つの全国イベント(カッター大会、鯉コンテスト)での企画・運営の成功		<ul style="list-style-type: none"> 各科、各部と連携して円滑に運営し、生徒の自己有用感を育成する。 	総務	<ul style="list-style-type: none"> カッターレース大会はコロナ禍で、代替記録会となったが、しっかりと運営し、成功させた。 食品技能コンテストは、会場を従来の東京から長崎へオンラインピックの開催に変更したが、更にオンライン開催への変更をするなど、状況の変化に柔軟に対応した運営を行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 食品部会事務局については、もう1年任期があるので、経験を生かし、コロナ禍を見据えた運営を行う。 		3		1	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で何かと辛抱や我慢が多く、生徒保護者もストレスが溜まっていると思うが頑張りたい。 	